

安心とつるおの「下町」の「手」をめぐって

防災 まちづくり 瓦版

発行ノ寺言問を防災のまちにする会

1993.9.1



壁一枚だけが残された建物（奥尻島青苗地区）



ホテル洋々荘を飲み込んだ土砂崩れ（奥尻島奥尻地区）



津波に打ち上げられた船が消防車を潰し、住宅にぶつかって止まっている（奥尻島青苗地区）

北海道でまた！「北海道南西沖地震」



1月に起きた「釧路沖地震」、2月に起きた「能登沖地震」の恐怖も覚めやらぬ7月12日、今度は北海道南西沖でマグニチュード7.8の大地震が起きました。今度の地震では、震源地のすぐ真上近くに位置する奥尻島を中心に、土砂崩れ、大津波、市街地火災に襲われ、200名以上の死者・行方不明者を出しました。地震後5分も経たないうちに大津波に襲われた沿岸の集落は、一瞬にして瓦礫の山と化し、さらに奥尻島青苗地区では火災の発生によって残った家までも焼失し、市街の大半を失いました。地震発生後、すぐに高台に避難して難を逃れた人々も、家を失ったばかりか、水や食料の不足に悩まされました。

この瓦版の発行日9月1日は70年前に関東大震災が起きた日。関東大震災での教訓を後世に伝えていこうと、9月1日は「防災の日」になっています。寺言問地区でも大地震による火災の発生が心配されていますが、津波の心配もないとは言えません。「防災の日」を機に、いつ来るか分からない大地震に対して、更なる備えをしておく必要があります。

高田製薬跡地・ただいま検討中その参

現在、一言会最大の懸案となっている高田製薬跡地の利用策。これまで広場整備を中心に検討してきましたが、「今後の防災まちづくりのために、ちょっとした会議ができるような建物が欲しい」という意見が多くありました。区でもこの点について検討し「広場に付随する防災施設であれば止むを得ない」との見解を示したことから、今後、小さな防災施設を設置する方針で検討を進めることになりました。

前号の瓦版で紹介したように、現地視察や勉強会を行って利用策のイメージづくりをしてみました。これに引き続いて3月17日の担当理事会でアイディア・ワークショップを開き、それぞれ担当理事のイメージを出し合い

方針へ！

そこで、「建物設置の検討にあたっては、区の意見を聞く必要があるだろう」ということになり、改めて区に意見を聞いたところ、「広場に付随する小さな防災施設ならば、建設可能だろう」との回答が返ってきました。

私がまちづくりスタッフです



その29

東向島一丁目
三谷 憲一さん
(一言会・理事)

一寺小学校の正門の前、三谷屋という屋号で瓶の製造と販売をしている。

昭和10年、墨田区横川生まれ。小学校四年生の時、3月10日の大空襲にあい、柳島小学校に逃げ込んで助かる。家は焼け、東向島の現在地に越してくる。ここで家業を続け、三谷さんは二代目。かつて、たくさんあった瓶の間屋が消えてゆくなか、最新式の機械を導入するなどして、家を守り、創業七十年になる。

子供の頃、高田製薬は遊び場だったこともあり、担当理事として「高田製薬跡地の整備」には深い関心を持つ。「東急不動産がマンション計画をたて、区が土地を買い戻した時、これで地元開放されると思った。一言会の基本構想の中に高田製薬跡地が入っていたからね。整備するからには予算の中で精一杯いいものを作らなければね。」

過去に病気をしたとは思えないほど、顔色も気配も至極いい三谷さん。中町会三部の部長として忙しい日々を送る。

三代目のご長男は修業中。三女のお嬢さんは外務省へとめで、皇太子妃になられた雅子さまとは、何度もお目にかかったことがあるとか。(純)

いちごのこと

一言問/防災まちづくり瓦版

第31号 平成5年9月1日発行

編集/一言問を防災のまちにする会・編集局

高原純子・若木菊枝・植竹トモ
阿部羊一・明間 藤・中村淑子

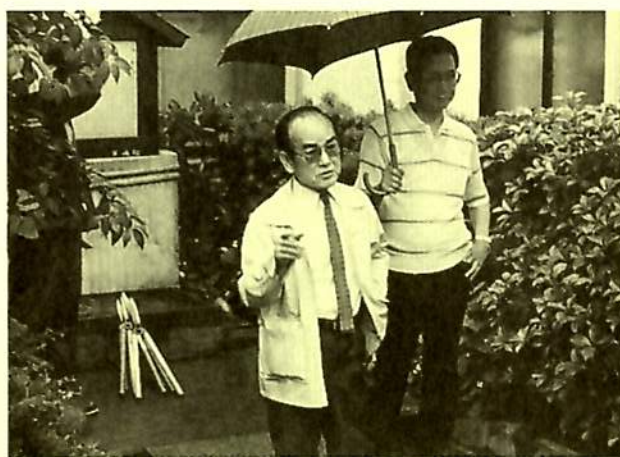
編集協力/マヌ都市建築研究所

発行/一言問を防災のまちにする会・事務局

墨田区まちづくり事業推進部地政整備課内
〒130 墨田区吾妻橋1-23-20 Tel.(5608)6261

向島有季園 / 剪定講習会できれいになりました

会古路地の生け垣もさわやかに夏を迎えました



剪定の指導をしてくださった武田先生



雨にも負けず熱心に剪定をしてくれた利用者の方々

6月19日(土)小雨の降る中、有季園利用者が生け垣の剪定を行いました。区役所緑化係のみなさんや、「緑と花の学習園」から相談員の武田先生をお招きしているりと指導をしていただきました。引き続き行われた利用者会議の席上では、日頃の栽培を通じて疑問に思うことを先生に質問したり、かねてから懸案になっていた有季園の2年間利用の要望や、秋の収穫祭の開催などについて話し合われました。

また、その後、会古路地(東向島三丁目)の担当理事により、今年の春に初めて花を咲かせた豆桜など会古路地の生け垣の剪定もおこなわれ、さわやかに夏を迎えました。

「緑と花の学習園」では、毎週火曜日と木曜日(10:00~16:00)に緑の相談を行っています。大いに活用してください。

墨田区文花2-12-17
☎3616-3823



会古路地の生け垣も剪定



初めて花を咲かせた会古路地の豆桜



津波と火災で焦土と化した奥尻島青苗地区

「自然と触れ合える広場」というイメージが多く、「大きな落葉樹が欲しい」「大きな池が欲しい」などの意見が目立ちましたが、一方で「今後の防災まちづくりのために、ちょっとした会議ができるような建物が欲しい」といった意見もありました。6月23日に開いた担当理事会でアイデア・ワークショップの結果を基に構想案を検討する中で、担当理事から「かねてからの課題であった建物を設置するかどうかははっきりしないと構想案を絵にできない」との指摘がありました。

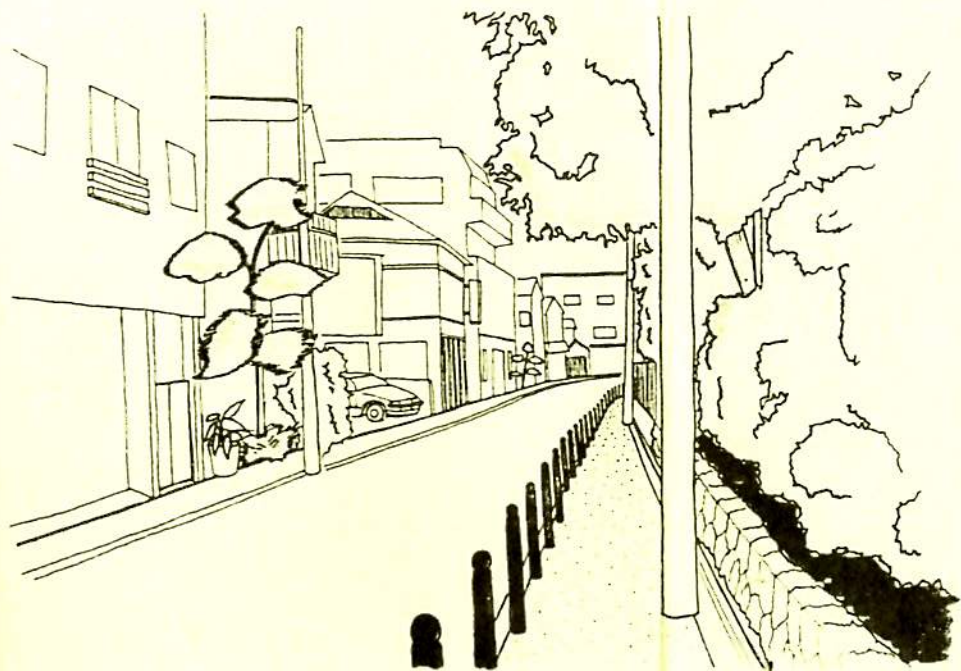
小さな防災施設を設置する

この回答を基に7月7日の担当理事会で「建物を設置するかしないか」を検討した結果、担当理事会としては小さな防災施設を設置する方向で検討を進めようということが方針として打ち出されました。7月13日の理事会でもこの方針が承認され、今後一言会は、これまでの広場づくりから、建築物を含んだ防災広場づくりへと、内容を変更して検討を続けていくことになりました。

みなさんも高田製薬跡地に「夢」のイメージを描いてみて下さい。

言問小学校前の整備イメージも変わる

—夏休みから整備開始—



「ガードレールの中に電柱が立っているため、通行の邪魔になって危険だ。」との地域の声から、三とも通りの当面の課題として取り組んできた言問小学校前の整備検討。電柱の移設を東京電力にお願いし、それに併せてガードレールをポラード（車止め）に変えたり、歩行者部だけをカラー舗装にするなど、道路の改良について道路課や警察との協議を重ねてきましたが、7月16日の担当理事会で具体的な整備イメージがまとまりました。

整備イメージは、次の通り。

- ①電柱を小学校側に寄せて移設し、太さもこれまでよりも細いものを使う。
- ②ガードレールはポラード（車止め）に変える。ポラードは細いもの（10〜15cm）を密な間隔（2mおき位）に配置する。
- ③歩行者部分をカラー舗装（茶色っぽいイメージ）する。車道との段差は付けない。



電柱の移設工事中の三とも通り。

「電柱の移設によって、沿道の住宅の屋根に電線が掛かるのではないか」との心配もありましたが、東京電力と相談して、電柱から金具で電線を外に出すことで解決。「ガードレールの撤去や路面舗装について警察からクレームがつくのではないか」との心配も、警察との協議でクリアしました。

電柱の移設工事は、7月22日から先行して行われましたが、路面の整備などが完成するまでは、今年度一杯かかる見込みです。それまでの間、担当理事会は道路課と協議を重ね、町並みに合ったデザインを検討していく予定です。

墨堤通りから隅田川への通り抜け通路がなくなった

3年前の平成2年、アサヒビールは堤通一丁目一番に寺島配送センターを建設する計画を発表しました。瓦版でも紹介してきたように、一言会では、アサヒビール及び設計者の飛鳥建設と協議を重ねてまちづくりへの協力を呼び掛け、災害時の避難を考えて、墨堤通りから隅田川に抜ける通路を確保すること、外壁にデザインパネルを使うことなど、いくつかの項目について実現を約束してもらいました。そして更に、通りへの圧迫感を少なくすることなどまちへの配慮を検討するよう要望していました。

- ①墨堤通り側の半分を建設する。
- ②隅田川への通り抜け通路は、今回は設置せず、隅田川側の敷地を開発する際に改めて協議をする。
- ③墨堤通り側の空地は、幅6・5mから5・0mに縮小する。
- ④建物は間口36m×奥行60m×高さ27・

2mとし、前回の計画よりも間口を2m、高さを2・7m小さくする。

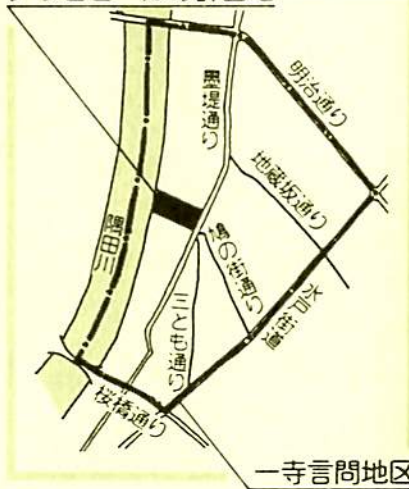
⑤前回は鉄骨造の計画であったのを、鉄筋コンクリート造に変え、デザインパネルは使わずに、コンクリートの壁に色を塗って壁面デザインをする。

といったものです。3年前に約束された隅田川への通り抜け通路もなく、建物が若干縮小されたとはいっても、墨堤通り沿いに9階建て相当の巨大なコンクリートの壁が立ちはだかることになりました。

島配送センターの建設計画が変更される!

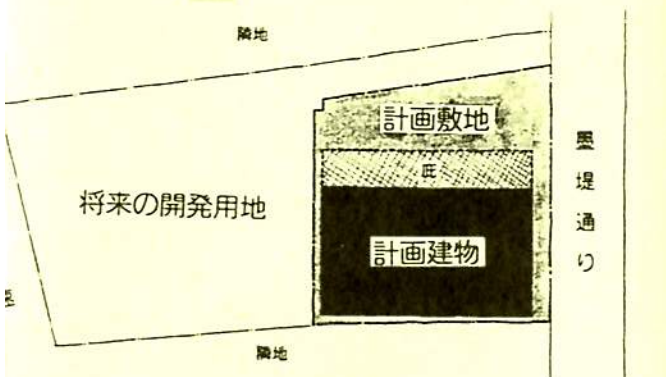


アサヒビールの計画地



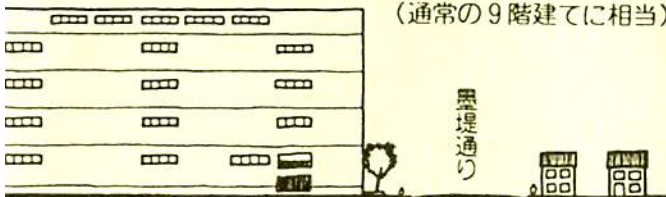
改めて要望書を提出、しかし...

これに対して一言会は、「基本的には当初の計画の半分を建設する」という話で、以前から要望してきたことが検討されて



アサヒビール寺島配送センター

間口36m×奥行60m×高さ27・2m
鉄筋コンクリート造 「倉庫」4層の上に「寮」1層
(通常の9階建てに相当)



墨堤通り沿いに大きな壁が立ちはだかる



3 日立市豊浦自治会が一寺言問を視察

6月26日、豊浦自治会の役員40名が一寺言問の防災活動を視察。雨の中、路地尊を中心に見学しました。(純)



4 非行化防止は、僕たちの手で！豆アナウンサー大活躍

夕方6時「みんな、おうちへ帰りましょう」と、向五東の町にかわいい声が流れます。今年も六年生の児童18人が、夏休みの42日間、交代でちびっこアナウンサーを務めました。(洋)



言問小学校

5 「あきたこまち」の稲を育てる
秋田県、大湯村から「あきたこまち」の苗が届きました。区内の小学校13校と1児童館で育てています。言問小学校では一年生が観察し、一寺小学校では五年生が育てます。実りの秋を期待したいですね。(純)



1 墨田川高校美汀会(PTA)学校周辺の史跡めぐりをする

4月3日、お花見をかねて、七福神めぐりなど、墨田川高校周辺の伝統ある史跡を見学しました。(純)



2 夏祭り

6月4日～6日、今年は高木神社の例大祭。祭囃子に土地っ子の血が騒ぐ。最近、神輿をかつぐ娘さんの姿が多くなりました。(純)



一寺小学校

東向島三丁目にお住まいになっている齊藤靖二さんは、地層から地球の歴史をのぞく仕事をされています。職場である国立科学博物館分館におじゃまして、地層のはなしと地震に対する思いを伺いました。

齊藤さんの話の中で印象的だったのは、地震は災害でありながら、我々が地球のゆっくりとした変化を感じとることのできる自然現象のひとつでもあるということです。

「自然現象の中には人が調整できるものと調整できないものがあります。地震のゆっくり調整できないものについては、

一寺言問人

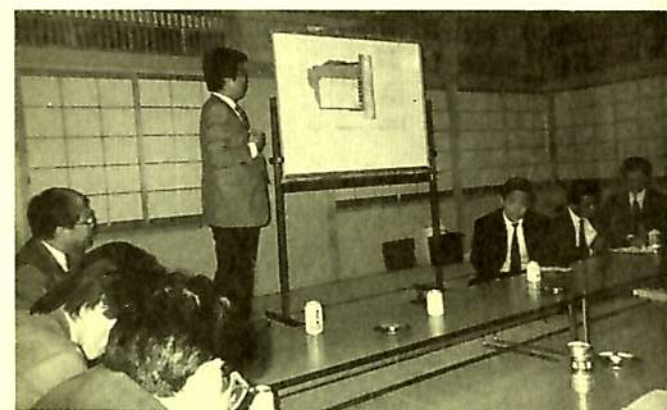
地球とつきあう



岩石でつくった世界地図を前に説明する齊藤さん

ただ怖がるだけでなく、相手(地球—その営み)を知ることが必要ではないでしょうか。その第一歩として身近なところにある崖にいて大きく褶曲した、あるいは断層のある地層をみて、地球の力の大きさを感じてください。」

ところで、博物館には各地の地質を示した日本列島の模型が展示されています。北海道は北海道の岩石を、沖縄は沖縄の岩石を使ってつくられていて、実際に触れて感じるすることができます。これが、昔々関東平野を覆っていた土なんだなど。この素敵な模型は齊藤さんたちの手づくりなんだそうです。



いなければかりか、前回約束した項目すらも撤回され、まちへの配慮が感じられない。」として、5月21日、アサヒビルに対して改めて要望書を提出しました。

6月11日にアサヒビルからの回答がありました。一言会の要望の主旨である「まちへの配慮」を検討した内容とはなっています。

アサヒビルは既に建築確認申請を提出しており、9月1日には工事を始める予定ですが、一言会は7月13日の理事会で、再度、同じ要望(下記参照)を提出することにしました。また、今後同じような事態を招かないように、対応策を検討していくことにしました。

一言会による要望 くまちづくりへの協力をお願い

1. 隅田川側に建物をセットバックし、墨堤通り側に空間を確保して欲しい。
2. 北側に建物をセットバックして、将来敷地南側に隅田川に抜けるアクセス路が確保できるように、空間を確保して欲しい。
3. 敷地全体を使用し、建物の高さ27mを更に低くして欲しい。
4. 新しい墨堤通りの景観形成に寄与するように、建物の形態と外壁のデザインを改良して欲しい。
5. 防災用水などに雨水を積極的に利用して欲しい。
6. ビル風対策、流出入の車両対策について十分な説明をして欲しい。

